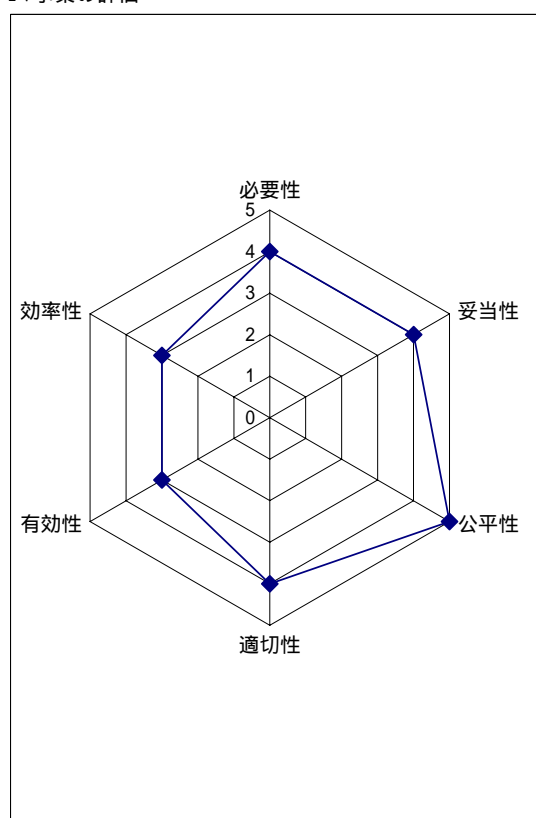


事務事業名	ごみ減量化推進事業	担当部局	市長部局 市民生活部
基本目標	美しいゆとりある快適環境と景観づくり(環境・都市基盤)	担当課名	生活環境課
施策体系	人と自然が融合する地域づくり	担当係名	生活環境係
施策	環境衛生対策を推進する		

1. 事業内容

事業本来の目的と具体的内容	広報結城やかんきょうカレンダーにより、生ごみ減量化器具補助金制度を市民に周知するとともに、補助金制度を利用して、多くの市民に生ごみ減量化器具を購入してもらい、一般家庭から排出されるごみの減量化及び堆肥化による資源化を図る。また、市民環境講座を開催し、ごみ収集とリサイクル事業の実態を市民に理解していただき、市民の意識向上を図る。		
事業の期間(開始/終了)	平成18年 4月 / 平成19年 3月		
根拠法令、条例、規則など	平成18年度結城市生ごみ減量化器具補助金交付要項(単年度要項)		
事業が対象としている人(モノ)	コンポスト容器	電動生ごみ処理機	
具体的な活動内容	広報結城やかんきょうカレンダーにより、生ごみ減量化器具補助金制度を周知する。 市民環境講座を開催する。		
事業の成果	平成17年度19件372,200円の補助金を交付した。 広報結城とかんきょうカレンダーに補助金制度の紹介を掲載。		

2. 事業の評価



項目	説明
必要性	4 依然、必要性が高い 結城市の一人当たりごみ排出量は平成11年度から270kgを超えて推移している。平成17年度は285kgと、目標値の260kgを大きく上回った。生ごみ減量化器具の普及を通じて、市民一人一人が自覚を持ちながらごみの減量化を進め、目標値の達成を目指すことから必要性は高い。
妥当性	4 法的な問題などがあり、行政が行うべき事業である 事業系ごみではなく、一般家庭ごみの減量化を進めるための事業であり、行政が関与しなければならない事業である。
公平性	5 広い範囲に対して便益を提供しており、偏りは見られない 広報結城やかんきょうカレンダーにて、広く市民に周知しており、全市民を対象とした制度である。
適切性	4 現在のやり方(手段)が一般的であり、特に問題はない 補助金申請に対し、担当課にて調査(住民登録・納税状況)を行い、手続きを行っている。
有効性	3 どちらとも言えない 事業の目的は達成されているが、結城市全体を考えた場合、あまり有効とはいえない。
効率性	3 どちらとも言えない コストは減量化器具申請者数の減少により、年々低下している。

総合評価	17年度生ごみ減量化器具は、予算不足のため補助金交付が11月で打ち切りとなってしまった。かんきょうカレンダーや広報結城でも周知しているのだから、購入者の需要に応えるべく、予算を確保したい。一人当たりのごみ排出量を削減していくという観点からみれば、ごみの減量化に有効な施策である。環境講座については、リサイクル施設の見学が実施され好評である。
------	--

3. 今後の事業の方向性

所属長判断	事業の方向性判断	短期的方向	改善(質的充実・効率化)	中長期的方向	改善(質的充実・効率化)
	説明	可燃ごみの内、おおむね40%が生ごみで、その内30%が水分を含むといわれている。生ごみ減量化を進めるためには、減量化器具を多くの市民に設置させる。そのため、広報媒体を活用し普及活動を行う。			
決定権者判断	決定内容	改善(質的充実・効率化)			
	説明	資源物の分別を推進し、可燃ごみの減量を図る。生ごみについては、水切りによる減量化のほか、堆肥化や減量化器具の活用によりごみゼロを目標として改善を図る。			